様式第1号(第8条、第9条関係)

事業者行動計画書 (変更計画書)

2021年 7月 26 日

(宛先)

滋賀県知事

提出者

(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 住所

滋賀県甲賀市水口町泉1259番地

氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)

株式会社積水化成品滋賀

代表取締役社長 真鍋 善幸

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例 第20条第3項 ・ 第20条第4項 第22条第1項 ・ 第22条第2項において準用する

同条例第20条第4項 の規定に基づき、事業者行動計画を 策定 (変更) したので、提出します。

事 業 者 の 氏 名 (法人にあっては、名称 および代表者の氏名)	株式会社積水化成品滋賀 代表取締役社長 真鍋 善幸
事 業 者 の 住 所 (法人にあっては、主たる 事 務 所 の 所 在 地)	滋賀県甲賀市水口町泉1259番地

1 事業所の概要

事	業	Ē	沂	σ,)	名	称	株式	(会社積	小	化成	記品沒	滋賀	
事	業	所	Ø,)	所	在	地	滋賀	[県甲賀	市	水口	町身	浪12	59番地
主	た	_	Z	5	į	事	業	細分	類番号	1	6	3	5	プラスチック製造業
									原油換算					用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を
該	当す	`る	事	業	者	の要	存件	Ш		ス排	出量	量が、	\equiv	あって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室 酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を
									任意提出	出事	業者	首		

2 計画の内容

計	画	0	内	容	別添のとおり
---	---	---	---	---	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

1 計画期間

計 画 期 間 R1 年度 ~ R5 年度

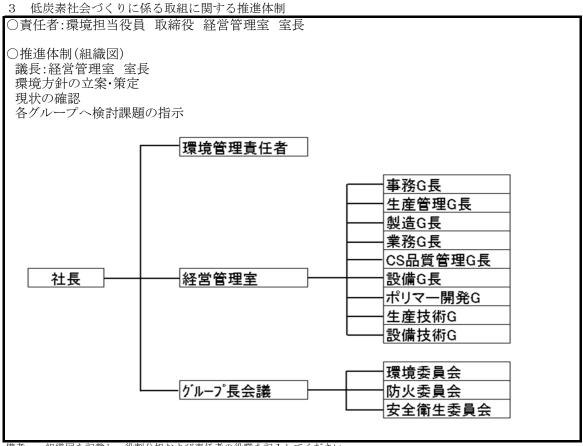
2 低炭素社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

我々は、積水化成品工業株式会社のCSRビジョンに関する社会貢献指針に基づき、 生産活動における環境影響を少なくすることが重要課題であることを認識し、以下の活動を行う。

- 1、法規定、協定類を遵守する。
- 2、環境汚染物質の発生を抑制する。
- 3、産業廃棄物の発生量を抑え、省資源を推進する。
- 4、エネルギーを削減する。
- 5、地域社会の環境保全に貢献する。

上記活動を推進するために、環境目的及び目標を設定し定期的に評価、見直しを行い、 継続的な改善と汚染の予防に努める。

以上の方針を、場内協力会社を含む事業場内の全従業員に周知し遵守させるとともに、 要求があれば一般の人が入手可能とする。



4 これまでに取り組んできた低炭素社会づくりに係る取組

省エネルギー設備の導入については昭和52年度から計画的に積極的な取り組みを行っている。
○製造事務所蛍光灯ダミー管の導入、使用していない区画の消灯 ○コンプレッサー更新及び台数制御による電力費削減 ○プラントエアー漏れ修理により低減 ○工水の冷却設備について、運転時間の調整を行うことにより電力量の低減 ○製品の乾燥時間短縮により電力量の低減 ○高圧変圧機の更新により電力量の低減 ○事務所へのLED照明の導入 ○外気条件によ空調明の運転台数の制御 ○事務用機器の不要時の電源切断及び省電力モードの利用により電力量の低減 ○高効率冷凍機の導入

- 5 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組
- (1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	取組の内容	実 施 スケジュール
1	設備導入 対策	高効率冷凍機に更新(製品製造用)	R1年度~R2年度
2	設備導入 対策	高効率照明ランプ、灯具へ随時更新	時期未定
3	設備導入 対策	高効率冷凍機に更新(製品保冷倉庫用)	R2年度~R5年度
4	設備導入 対策	個別省エネ改善テーマの推進	R2年度~R5年度
5	設備導入 対策	高効率空気圧縮機に更新(計装設備用) 【追加】	R3年度~R4年度
6			
7			
8			

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

_ \ -	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	5001 - 1mm=50001000 - 01 H = 5100000 - 100 H	
	温室効果ガス の種類	取組の内容	実 施 スケジュール
1		冷凍機更新【(1)取組の内容】により既設冷凍設備の老朽化による冷媒大気漏れリスク低減	R1年度~R5年度
2			
3			

(3)	上記の取組により	0 達成しよう	レオス目標お	よび目標設定の考え	方

) NIT = WI I+ I	
上記の取組等により、	H30年度を其準年度り		
	H30年度を基準年度と		樗(/) 達成を目指 ます
上記ツス双飛寺により、		. U 、 YA I YA XX III. U	

なお、原単位の考え方はつぎのとおりです。

温室効果ガス排出量は製品の生産量に大きく影響を受けるため、生産量を原単位の指標(分母) として設定しました。なお、実績を目標と適切に対比させるため、計画期間中の各年度の温室効果ガス排出量の 算定に当っては、電気のCO2排出係数(電力原単位)は基準年度の係数に固定して算定します。

※ 製品原単位格差是正のため、ウェイト換算実施した生産量を使用する。

7 その他の低炭素社会づくりに向けた取組

		灰茶任会づくりに回りに取組 	実 施
	取組項目	取組の内容および当該取組により達成しようとする目標	夫 旭 スケジュール
1	再生可能 エネルギー の導入	太陽光発電設備の導入(CP1.2.3倉庫屋根 1,000㎡、PO倉庫屋根 1,000㎡)	R2年度~R5年度 検討中
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			